再び感染拡大が起こる可能性は高いと予測されています

できるだけ小さな波に抑えたい

対策が進められています

- 感染状況の変化を注視
- 検査体制の拡充
- ワクチンや治療薬の開発

私達も感染拡大防止への取り組みを続けよう！

人との間隔２メートルを目安に

検温や体調チェックを続けよう

帰宅したら手と顔を丁寧に洗おう

熱中症にも気をつけて

マスク着用飛沫感染を防ごう

職場の環境や働き方にも工夫を

声をかけ合い、支え合って過ごしていきましょう

村役場

村役場住民課窓口にも透明なアクリル板を設置しています。

道の駅

村民の日常の買い物にも利用される「いいたて村の道の駅までい館」は、休館せず、営業時間を短縮するなどさまざまな対策を講じながら営業を続けました。

対策を続けています

支え合いの輪が広がる

感染予防に欠かせなくなったマスク。手に入りづらくなると、グループや個人が、手づくりのマスクを地域の方などに贈る動きが広がりました。

さすが飯舘村民!

宮内行政区では女性有志がマスクを手づくり。メッセージを同封し、帰村している区内の世帯に配りました。

マスクや消毒液をいただきました

４月下旬から５月にかけて、村民の方や企業・事業所などから、村民へ、学校へとマスクや消毒液の寄付をいただきました。それぞれ大切に使わせていただいています。本当にありがとうございました。

右の写真は、村民の方から役場の職員にといただいた手作りマスクです。衣服の生地を再利用した環境に優しいマスクで、付け心地もよく、緊張が続く日々の中で心もいやされました。

【村への寄付を報告します】※不織布マスクは感染非常事態時用に備蓄
株式会社菊池製作所様（不織布マスク2,000枚）・ 横山建設工業株式会社様（不織布マスク1万2,000枚）・ 株式会社東栄様（不織布マスク1,000枚）・ 東光電気工事株式会社様（柿渋染布マスク70枚）・ 有限会社佐藤建材様（不織布マスク500枚／いいたて希望の里学園へ）・ 株式会社ハヤシ製作所様（不織布マスク8,000枚）・ 髙木久子さん（大倉／手作り布マスク84枚／村職員へ）・ 荒利喜さん（飯樋町／アルコール消毒液代替品24本）　※以上は校了時点の情報です